

# 一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで歩き～



越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 113



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

## 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来19年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝、夜の駅立ちは、通算3800日を超え5期目残り1年を切りました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は100名を超えました。これでスマートフォンでのライブ配信をすることが出来ます。登録のご協力に感謝し、更にご登録を引き続きお願いします。

チャンネル登録



## 安倍元総理が襲撃された日、駅前市民対話集会でライブ中継



今日は、午後6時30分からせんげん台駅東口で私の第5回駅前市民対話集会をライブ中継で配信しながら開催した。

この日は、参議院選挙期間中で昼頃奈良県で応援演説中の安倍元総理が、銃撃されたとの衝撃的事件が発生し、開始時間には死亡が報道さ

れていた。

これを受けて、7月10日の投票日直前にして政党や候補者が選挙活動の自粛を表明している最中でもあった。

事件の詳細は当然明らかになっていないものの、一国の政治指導者が凶弾に倒れる事態に緊張感が全国に走っていた。

しかし、だからこそ私は予定通りに「争点なき参議院選挙の歴史的意味」をテーマに駅前市民集会を開催し、市民と共に選挙と言う公共空間を通して、分断と不信がまん延する社会の中で何が選挙で問われているのか意見交換に臨んだ。冒頭安倍元総理と遺族への哀悼の意を祈念した上で、ロシア軍によって命が日常的に奪われているウクライナ国民の窮状に触れた。

暴力による民主主義の破壊は許されないとのステレオタイプの主張があちこちから発信されていたが、民主主義はある日突然破壊されるのではないことは、日本の戦前の歴史や世界の権威主義的な国を見れば明白だ。

「現代においては、銃で権力を掌握するのは困難だ。これは良いニュースで、私たちは民主主義は安全だと当然の様に思っているが実はそうではない。民主主義は別の方法で死ぬのだ。怒れる市民には、民主主義的な制度を民主主義に反して使う指導者を選ぶ余地がある。こうした“内部からの死”に対して民主主義は本質的に脆弱だ」 (ステイブ・レベッキー)

<https://www.youtube.com/watch?v=kZ6s2zTafyo&t=409s>

(7月8日・金曜日)

## 現役政治家が真面目にゲームしてみた Vol13

今日は参議院選挙の投票日の次の日となったが、選挙開票を夜明けまで見ており、また埼玉選挙区を始め全国の比例票の結果も朝刊で確認していたため朝の駅立ちは止む無く中止をした。この日は午後3時からゲーム「Democracy 4」のプレーの3回目をライブ配信した。

当然だが、参議院選挙の結果に対するコメントを冒頭に発言した。いくつかの感想を話しながらのプレーとなったが、何より投票率は全国の52%に対して越谷市は49%と実に13万人もの有権者が棄権をしていることは深刻な事実だ。

<https://www.youtube.com/watch?v=8GLgZbbNQ58&t=822s>

(7月11日・月曜日)

(裏へ)

## 介護のために札幌と越谷を往復する

今朝の駅立ちは、せんげん台駅東口で、通常通り午前5時30分から午前8時30分過ぎまで実施した。

連休明けのこの日も朝から蒸し暑く、多くの市民から体調に気をつけて下さい、熱中症にならない様にと心配や励ましの声を頂いた。

午前8時過ぎに馴染みの中年男性と久しぶりにお会いした。大きなキャリアバックを手にしておられたので、何処かにお出かけですか、と尋ねた。すると親の介護のためにこれから札幌に向かうところで、もう3年ほど往復している、との返事だった。今帰宅したのだがまだまだ続くだろうと付言された。

そうですか、それは交通費だけでも大変ですね、と応答した。えーまあ、白川さんも頑張ってください、と話されてエスカレーターを上って行かれた。妻も私の母と妻の母の二人を同じように12年前、越谷と福岡を往復して介護をしていた。

月に一度飛行機を利用して約2年間も続き、時々私は私も福岡に帰省していた。

介護問題は、個々人にとって大きな課題であり、社会的支援と同時に地域での人間の関係性が極めて大切であることを再確認した朝だった。(7月19日・火曜日)

## 議員報酬は、どの様にして決まるのか

今日は、午後6時30分から埼玉政経セミナー主催の「地方議員のススメ こうすればなれる！実践講座」の2日目を、春日部市民活動センターで開催した。

今回は「地方議会のしくみと議員の役割」をテーマに私が講師となり話題提供をした。

また、海老原直矢上尾市会議員と山田裕子越谷市会議員にもコメンテーターで参加して頂いた。

特に住民自治と地域民主主義の充実について以下のレジメで話をした。

- 1)、議員報酬と定数の在り方とは。
  - ①市民からその理由と根拠を聞かれたら
  - ②「身を切る改革」とは何か
  - ③新人候補者の参入の公平化
- 2、討議が議会運営の基本？(質疑と質問)
  - ①議員間討議の実体
  - ②質問の制限に意味があるか

## ③議決責任と説明責任

### 3、コロナ禍で問われるもの

- ①旧来の事業から新たな事業の実施
- ②支援を受ける市民から当事者意識をもつ市民へ
- ③議会改革の到達点

(住民福祉の向上につながるのか)

- 1)、住民と共に歩む議会
- 2)、議員間討議を重視する議会
- 3)、市長と政策競争をする議会

2人の議員からは、候補者発掘に関して問題意識を共有する市民は多くいるのだが、いざ立候補となると、特に女性は障害が高くなる。

これをどうすればいいのか、との悩みと実践に対してハードルが高いのは現実だが、結局は市民自身の意識を変えて行く日常の持続的な活動が問われるとの意見に納得していた。

(7月23日・土曜日)

## コロナ支援策は検証と評価が先決

越谷市議会の7月臨時議会が、7月26日の1日間で開催された。市長から補正予算案9億9000万円の提案があった。

ロシアのウクライナへの軍事進行もあって、日本でも物価高や原油高が続いているため、高騰している。

しかも感染者数は、越谷市でも1日700名を超える、過去最大規模の状況となっている。

そこで、市民や事業者等への影響を緩和するため子育て世帯応援給付金給付事業に4億4380万円や一般貨物自動車運送事業燃料高騰対策支援金に1億8470万円等の8つの事業が提案され、全会一致で可決した。

しかし、これまで令和2年4月の専決処分以来、27回もの補正予算の議決によって総額629億5300万円もの税金が使われて来た。

支援の対象者は、様々な市民や事業者、施設等広範囲に及び実に一番多い支援対象者は、福祉事業者で28事業となっている。

依然コロナ禍が収束せず、これからも支援策が必要とされ、しかも3年も継続的に取り組まれて来たこれらの事業の検証や評価が極めて事務的となっている。

3年も過ぎて何故、この様に硬直的な対応しか議会も行政も出来ないのか、本会場で市長に対して質疑に立った。

<https://www.youtube.com/watch?v=mglKuNKYigo>

(7月26日・火曜日)